

太平洋イカ類漁場開発調査

(開運丸アカイカ漁場調査, 東奥丸イカ類漁場調査)

天野 勝三・中田 凱久・涌坪 敏明

兜森 良則・田村 真通

発表誌名

イカ釣漁場開発調査資料 X (昭和 60 年 3 月) 及び昭和 59 年度外洋性イカ (スルメイカ・アカイカ) に関する生物測定・標識放流・海洋観測基礎資料集

抄 録

昭和 59 年 6～10 月の期間において, 試験船開運丸 (調査海域北緯 $39^{\circ}-41^{\circ}-43^{\circ}-07'$, 東経 $141^{\circ}-30'-158^{\circ}-03'$) 及び東奥丸 (北緯 $40^{\circ}-22'-42^{\circ}-31'$, 東経 $141^{\circ}-23'-151^{\circ}-49'$) によって, スルメイカ・アカイカ等の漁場環境, イカ類分布の状況及び群の生物的特性等についての調査を行った。

1. スルメイカ及びアカイカ漁場の環境について

昭和 59 年春は北日本を中心として, 異常低温にみまわれた。夏以降表層水温は回復したが, 中層以深は年間を通じて低目に推移したと思われる。

2. スルメイカ, アカイカの分布

(1) スルメイカ

両試験船によるスルメイカ漁獲尾数は 22,527 尾で 57 年, 58 年を大きく上回っている。主な漁獲位置は 40°N , 143°E の本州寄り, $40^{\circ}\text{N}\sim 42^{\circ}\text{N}$, $145^{\circ}\text{E}\sim 146^{\circ}\text{E}$ の道東沖であった。また, $41^{\circ}30'\text{N}$, 152°E 付近の沖合にも分布がみられた。

(2) アカイカ

両試験船によるアカイカ漁獲尾数は 67,788 尾であった。漁期初めのアカイカの濃密な分布域は 40°N , 158°E と 40°N , 153°E 付近にみられ, 以後の標本船操業位置から判断すると, 同群と後続群はこれらの経度付近に分布していたと思われる。

3. アカイカ来遊群の性状及び漁獲量について

青森県の釣によるアカイカ水揚量は 10,400 トンと最盛期 (昭和 53 年) の $\frac{1}{4}$ の低レベルに落ち込んだ。標本船の結果によれば, 年平均 C. P. U. E., 魚体ともこれまでの最低を記録し, それぞれ 12.1 尾, 455 g であった。